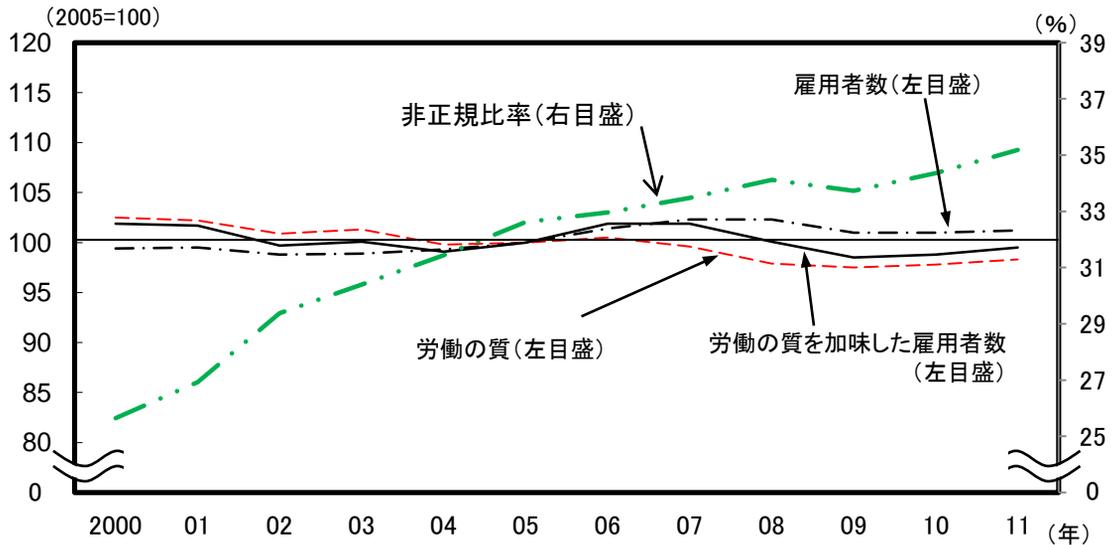


## 労働の質を加味した雇用者数の推移

労働の質は2007年以降押し下げられている。労働の質を加味した雇用者数は、わずかに下回りながら雇用者数と同じように推移している。



資料出所 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」、総務省統計局「労働力調査特別調査」(2000～2001年、2月調査)「労働力調査(詳細集計)」(2002年以降、年平均)「労働力調査」をもとに厚生労働省労働政策担当参事官室にて試算

- (注)
- 1) 労働の質は、労働者の属性別賃金を基に試算。
  - 2) 労働の質を考慮した雇用者数＝雇用者数×労働の質
  - 3) 雇用者数は非農林雇用者数。
  - 4) 2011年は総務省統計局による補完推計値を用いた。
  - 5) 非正規比率＝(1－正規の雇用者／役員除く雇用者)×100

### (非正規雇用者比率の上昇により押し下げられた雇用者全体の労働の質)

- 労働力には量と質の両面がある。労働の質は、例えば同じ一人でも新入社員とベテラン社員では経験年数の違いから仕事への貢献度が異なるなど、年齢や学歴、勤続年数などの労働者の属性により異なっていると考えられる。
- これらの属性により「労働の質」が変化すると仮定し、属性別賃金データを基に労働の質を試算すると、一般労働者の労働の質は上昇傾向で推移しているが、短時間雇用者の労働の質の向上はほとんどみられず、雇用者全体の労働の質は2007年以降非正規雇用者比率の上昇により押し下げられている。
- このため、労働の質を加味した雇用者数は、実際の雇用者数をわずかに下回りながら推移しており、今後、人口減少が見込まれる中、労働力を維持するためには、女性や高齢者等の就労参加促進とともに、非正規雇用者の質の向上を図ることが重要である。